11/22 Fri

個　人　型　**樋口亜紀子**（和小学校）

共同研究者　**岩川直樹**
（埼玉大学 教授）

わからないからワクワクしちゃう、楽しい授業の作り方

四角形の内角の和は、本当に360°なのか？

子どもたちは、はさみ・画用紙・のりを手に、一斉に動き始めました。

樋　口「うわ～、今日は先生の負けだ。予想よりいっぱい考えが出ちゃってまとめられないよ」

子ども「いくつぐらい予想したの？」

樋　口「３つぐらいかなと思ったら、20個以上出ちゃったよ。すごいよ、君たち」

そんなやりとりなど、知らんという風にチラリとこちらを見て、また四角形をチョキチョキ切って貼り続ける子どもたちでした。

子ども「ぼくはね、順番をかえてみて全部たしかめてみているんだ」

子ども「私は平行な直線を引いて、三角形の時のように、ここと同じ角度かもって考えてやってみてるんだけど、うまくいかない」

一人一人が小さな自分の仮説を持って、何度も何度も試していました。

岩川直樹先生からは、子どもたちの姿を通して、一見無駄なようでもたくさん操作し、探究している子どもたちのひとつひとつの仕草や子どもの関心に、教師自身がわくわくしながらもう一歩そばに近づくことのすてきさ、また、子どもの「わからない」をもう一度子ども集団に委ねていく学びの尊さを教えていただきました。

教材の系統性をきちんと知った上で、伏線回収していくという授業づくりのおもしろさ、また、そのおもしろさを共有できる仲間が教師自身の自立を後押しするというお話も大変興味深かったです。

さて、11月22日、５年松組の子どもたちの探究の瞬間を共有しに、ぜひ和小学校においでください。子どもを真ん中にして、ざっくばらんにトークするシムポジウムにもご参加ください。

共同研究者 岩川先生から

自分の手探りや手応えのある探究。それは高学年になっても持続されるべき大切なものだ。自分なりにとことん探究しているからこそ、仲間の探究にも深い関心を向けることができる。わからないことにぶつかっても、仲間と共に乗り越えてゆくことができる。そういう授業のなかで、一人一人の子どもがどう育ち、教室にどんな風土がうまれるものなのか。参加者のみなさんと学んでゆきたい。

～日 程～

①	受付	13：40～13：55
②	授業公開	14：00～14：45
③	開会式	14：55～15：05
④	シンポジウム	15：05～16：35
⑤	閉会式	16：35～16：45